

FULL HEIGHT DOOR®

STEALTH MODE ステルス枠

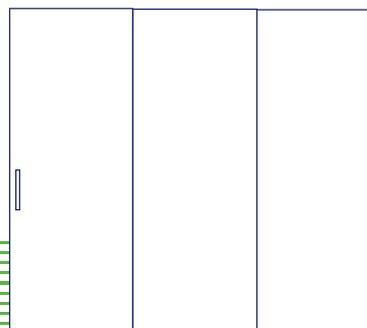
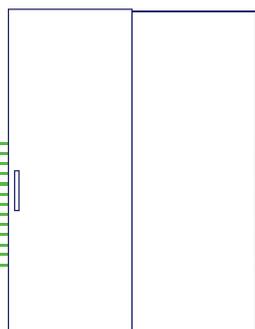
フルハイトドア®

# 施工手順書

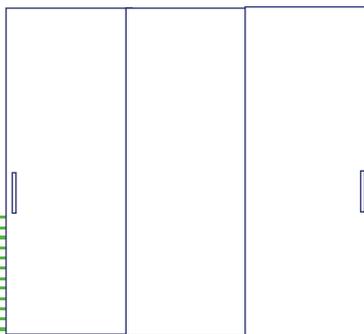
2枚引込み戸・3枚引込み戸【上吊連動タイプ】  
3枚引違い戸【上吊 + 床付連動タイプ】

3枚引込み戸  
上吊連動タイプ

2枚引込み戸  
上吊連動タイプ



3枚引違い戸  
上吊 + 床付連動タイプ



# 施工を担当される方へ

安全のために必ずお守りください

## 注意

### ● 施工前にこの手順書をよく読み、正しく施工してください

- 枠・下地枠の取付は、水平・垂直・ねじれがないかを必ずご確認し、確実な固定を行ってください。
- 本製品の組み立てで付属ビスがある場合には、必ずそのビスを使用してください。  
付属ビス以外で取り付けた場合、部材の脱落や枠のゆるみ等が発生する恐れがあります。



### ● ケガや事故防止のため、以下の事項を必ずお守りください

- 風の強い場所では開き戸が強く閉まるなどして手をはさむ恐れがありますので  
扉を開け放しにしないようご注意ください。
- 運搬作業時は滑り止めの手袋を着用し、扉建て付け時には十分気をつけて行ってください。



### ● 施工前及び施工時の確認

- 本製品は屋内用ですので、屋外や水がかりする箇所には使用しないでください。
- 本製品は内装扉を用途とする商品です。他の用途として使用したり、本手順書と異なった施工をした場合の保障は当社では責任を負いかねます。
- 高温・高湿の環境条件では使用できません。
- 施工前に部材の数量・キズの有無をご確認ください。  
施工後のキズについては当社では責任を負いかねます。
- 部材を保管する場合は湿気・直射日光を避け、十分な養生をしてください。
- 開口部または枠の寸法を測り、躯体または枠が正確に施工されているか、  
ご用意の扉サイズが適切かどうかご確認願います。
- 施工時に電動ドライバーを使用する場合は、カラモミを防ぐため最後の締め付けは  
必ず手締めにて行ってください。
- 扉の調整の際には、電動ドライバーは絶対に使用しないでください。  
ビス類が破損し、調整できなくなることがあります。
- 扉や枠の表面に、長時間テープを貼らないでください。汚れ・破損・色ムラの原因になります。  
また、突き板塗装ドアの場合、塗装仕上げ面には絶対にテープを貼らないでください。

### ● 施工後の処理

- お施主様への引渡し前に、工事管理者が必ず点検を行い、不具合箇所を補修してください。
- 施工後はキズが付かないように養生してください。  
このとき、表面にテープを直接貼らないでください。  
また、突き板塗装ドアの塗装仕上げ面には絶対にテープを貼らないでください。
- 清掃の際は水を固く搾った布で汚れを落とした後、柔らかい布で乾拭きしてください。  
また、汚れが落ちにくい場合は、薄めた中性洗剤で汚れを落とした後、  
洗剤が残らないようによく拭き取ってください。
- 内装工事が終了するまでの間は、扉をはずして保管されることをお勧めします。

# □ 2枚・3枚引込み戸(上吊)

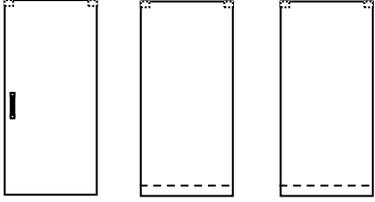
forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2020/6

## ■ 製品及び同梱内容の確認

- 製品を開梱して、同梱品に間違いがないか確認をお願いします。

建具			同	梱	品
部材	数量	備考			
2枚引込み戸	1枚	引手取付済み(スリット手掛けタイプはなし) 固定カップ取付済み			
	1枚	固定カップ取付済み ユニット本体取付済み			
3枚引込み戸	1枚	引手取付済み(スリット手掛けタイプはなし) 固定カップ取付済み			
	2枚	固定カップ取付済み ユニット本体取付済み			
					

下地枠			施工手順書		
部材	数量	備考	同	梱	品
縦枠下地	1本				
中方立下地	1本				
片方立下地	1本				
上枠下地	2本	2本に分割されています			
開口定規	1本	下地枠内(狭)寸法用			
	2本	下地枠内(広)寸法用 (2本に分割されています)			
見切縁	1本	ラフカット			
隙間隠し材	1本	上枠勝ち納まりは無し			
 <div data-bbox="343 1366 614 1512" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※下地枠外寸法開口定規は同梱されておりません。 ※上枠下地及び開口定規は2421mm以上の場合2分割されています。</p> </div>					

# □ 2枚・3枚引込み戸(上吊)

forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2020/6

## ■ 製品及び同梱内容の確認

- 製品を開梱して、同梱品に間違いがないか確認をお願いします。

下地金物箱			同		引戸レール		レールエンドプレート	化粧カバー		
部材	数量	備考	同		※トリガー加工有り	※トリガー加工無し	(注1)			
金物箱	1式				2枚引込み 3枚引込み	1本	2枚引込み 3枚引込み	1本 2本	2枚引込み 3枚引込み	4ヶ 6ヶ
レール	1式									
			梱		上部吊車	上部吊車(スライダー付)		トリガー		
					2枚引込み 3枚引込み	3ヶ 5ヶ	2枚引込み 3枚引込み	1ヶ	2枚引込み 3枚引込み	2ヶ
							トリガー取付治具	スパナ	J型ジョイント金物	ジョイント金物
					2枚引込み 3枚引込み	1ヶ	2枚引込み 3枚引込み	0ヶ 2ヶ	(注2) 2枚引込み 3枚引込み	2ヶ
					キャッチ金物	調整ビス				
					2枚引込み 3枚引込み	2ヶ 4ヶ	H24 H27	14本		

(注1)レールエンドプレートは2サイズありますのでご注意ください。  
 ポケット戸用(A=25mm)と、片引き戸用を含むその他の引き戸用(A=23mm)です。  
 取付ける際は引き戸の種類とレールエンドプレートのサイズをご確認ください。

(注2)ジョイント金物は扉厚によってB寸法が異なります。  
 ・扉厚41mm用: B=25.5mm  
 ・扉厚36mm用(パーティションシリーズのみ): B=23mm  
 ※金物の刻印が異なります。B=23mm「I-29」、B=25.5mm「I-31.5」

# □ 2枚・3枚引込み戸(上吊)

forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2020/6

## 1 施工前の確認事項

① 下地枠を取り付ける前に、開口部の巾（図面：ROW寸法）と、高さ（図面：床仕上～開口高さ）の確認をしてください。 （縦枠下地は、床仕上げ面からの立ち上がりとなっているので注意してください）	※1				
		×	×	○	
	※2				
		図面上のRow寸法（下地枠外W）の確認			
<b>注意</b>	※1：下地枠は躯体（構造材）に取り付けますので、下地枠の裏側部分には必ず木材を全面に入れておいてください。 ※2：施工前のW寸法確認は、図面上のRow寸法（下地枠外W）を確認してください。 ※開口部（柱・まぐさ等）の水平・垂直・前後の倒れ・ねじれ等がないか、水平器等で精度を十分に確認してください。				

## 2 縦枠下地の取り付け

① 縦枠下地を柱に固定します。 （向って左側は下地断面が厚い方、右側は薄い方） 枠の位置は壁厚の真ん中に置き、柱にあててレーザー等で立ちを見ながら、同梱されている調整ビスにて枠の固定を行ってください。（縦枠下地は壁厚より1mmずつチリが出ます）					
	調整ビスにより枠を固定	壁厚より1mmずつチリが出る	ビスは枠より飛び出さないように固定、及び調整を行ってください。		
② 取り付けの際に、調整ビスの中に同梱されているクリアランススペーサー(2mm)を躯体と枠の間に入れ、クリアランスを保ち、ビス固定を行ってください。（図面寸法：躯体と縦枠下地のクリアランスは2mm） また、縦枠下地の裏側下部にはあらかじめ2mmのパッキン材がついています。					
	クリアランススペーサーを挟む	2mmのクリアランスを保ち調整ビスにより枠固定	あらかじめ縦枠下地の裏側下部に2mmのパッキン材がついている		
<b>注意</b>	※1：縦枠下地の下部裏側にあらかじめ2mmのパッキン材が取り付けられていますので、枠内寸法が確保できない場合以外は外さないでください。 ※2：クリアランススペーサーが抜けない場合は、手動ドライバーにて少しゆるめてから外してください。 ※3：躯体がスタッドの場合は、石膏ボードに直接、縦枠下地を取り付けると調整ビスが利かないので、必ず間に木材（15mm以上）を入れてください。 ※4：調整ビスを何度も出し入れすると、ビス穴が広がり調整が利かなくなる可能性があるため、その際は別の所で再度、取り付けを行ってください。				

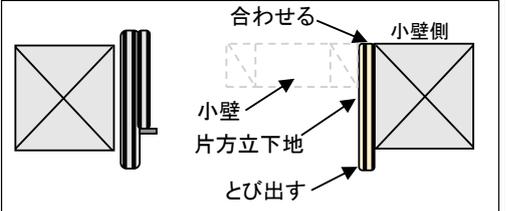
# □ 2枚・3枚引込み戸(上吊)

forステルス枠

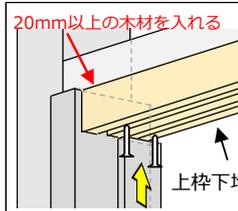
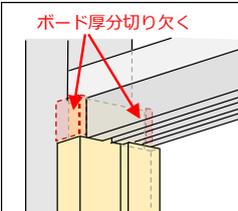
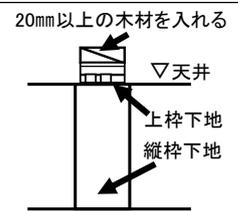
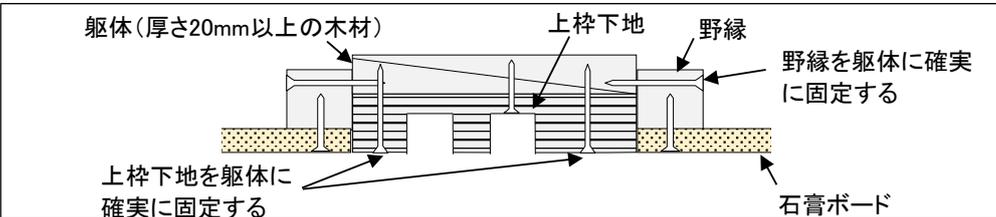
施工手順書2013/6更新

改訂2020/6

## 3 片方立下地の取り付け

<p>① 片方立下地を接着剤・取り付けビス(現場手配品)併用にて躯体に固定します。(小壁側の壁面と下地材を合わせます)</p>			
	<p>下地裏面に接着剤全面塗布</p>	<p>下地表よりビス固定</p>	<p>片方立下地の取り付け位置 (小壁側の壁面と下地材を合わせる)</p>
<p><b>注意</b></p>	<p>※下地枠裏面には、必ず接着剤(現場手配品)を全面に塗布してください。(許ビスをお奨めします)                  ※下地枠の取り付けにはしっかりと固定できるビス(現場手配品)を使用し、必ず下穴の開いている位置でビス止めしてください。                  ※下地枠取り付け後にクロスで仕上げますので、ビスの頭が飛び出さないようにしてください。</p>		

## 4-1 上枠下地の取り付け (上枠勝ち納まりの場合)

<p>① 上枠下地を接着剤・取り付けビス(現場手配品)併用にてまぐさに固定します。上枠下地の取り付け位置は、縦枠下地と同様に壁厚の真ん中に取り付けてください。(縦勝ちに納まります) 上枠下地の裏側には、20mm以上の木材を入れてください。</p>				
	<p>下地裏面に接着剤全面塗布</p>	<p>上枠を縦枠勝ちに納め 下地表よりビス固定</p>	<p>枠下地の天井のみ込み部分は ボード厚分欠り欠く</p>	<p>上枠下地の裏には 20mm以上の木材を入れる</p>
<p>② 野縁を躯体にしっかりと固定します。その際、石膏ボードの厚さ分を確保してしてください。その後、石膏ボードを上枠下地に合わせて野縁に固定してください。</p>				
<p><b>注意</b></p>	<p>※下地枠裏面には、必ず接着剤(現場手配品)を全面に塗布してください。(許ビスをお奨めします)                  ※下地枠の取り付けにはしっかりと固定できるビス(現場手配品)を使用し、必ず下穴の開いている位置でビス止めしてください。                  ※下地枠取り付け後にクロスで仕上げますので、ビスの頭が飛び出さないようにしてください。またその際、レールビスと干渉しない位置でビス止めを行ってください。                  ※上枠下地の裏側には、必ず20mm以上の木材を入れてください。                  ※野縁は躯体にしっかりと固定してください。上枠下地が固定されている躯体に野縁が固定されていないと、クロス割れ、よれ、塗り壁割れの原因となります。                  ※縦枠下地の天井のみ込み部分は、ボードの厚み部分の欠き込みを行ってください。</p>			

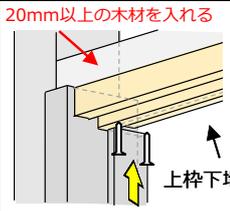
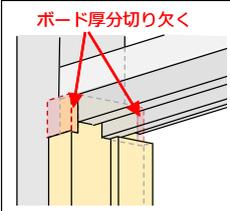
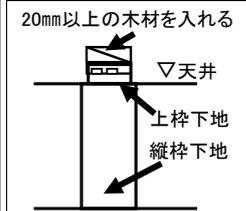
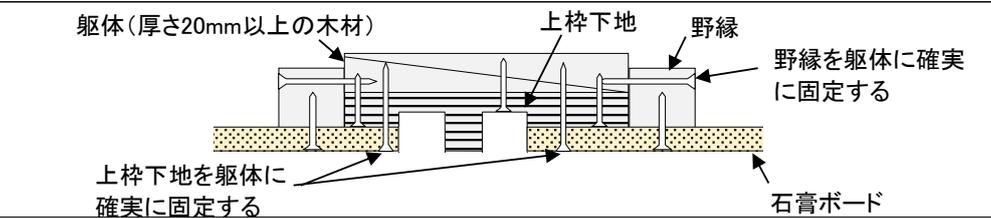
# □ 2枚・3枚引込み戸(上吊)

forステルス枠

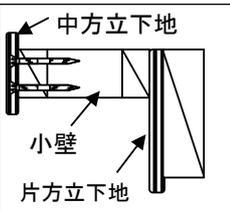
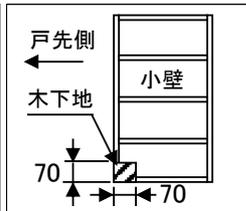
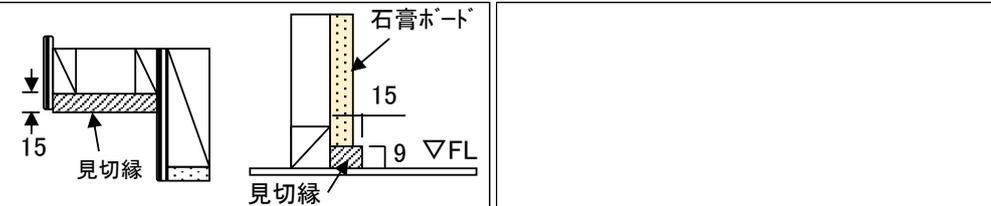
施工手順書2013/6更新

改訂2020/6

## 4-2 上枠下地の取り付け (天井ボード勝ち納まりの場合)

<p>① 上枠下地を接着剤・取り付けビス(現場手配品)併用にてまぐさに固定します。上枠下地の取り付け位置は、縦枠下地と同様に壁厚の真ん中に取り付けてください。(縦勝ちに納まります) 上枠下地の裏側には、20mm以上の木材を入れてください。</p>		 <p>20mm以上の木材を入れる</p> <p>上枠下地</p>	 <p>ボード厚分切り欠く</p>	 <p>20mm以上の木材を入れる</p> <p>▽天井</p> <p>上枠下地</p> <p>縦枠下地</p>
<p>② 野縁を躯体にしっかりと固定します。その際、石膏ボードの厚さ分を確保してしてください。その後、石膏ボードをレール溝に合わせて野縁と上枠下地に固定してください。</p>	 <p>躯体(厚さ20mm以上の木材)</p> <p>上枠下地</p> <p>野縁</p> <p>野縁を躯体に確実に固定する</p> <p>上枠下地を躯体に確実に固定する</p> <p>石膏ボード</p> <p>石膏ボードの厚さ分を確保して、野縁を躯体に固定 その後、野縁と上枠下地に石膏ボードを取付ける</p>			
<p><b>注意</b></p> <p>※下地枠裏面には、必ず接着剤(現場手配品)を全面に塗布してください。(許ビスをお奨めします)</p> <p>※下地枠の取り付けにはしっかりと固定できるビス(現場手配品)を使用し、必ず下穴の開いている位置でビス止めしてください。</p> <p>※下地枠取り付け後にクロスで仕上げますので、ビスの頭が飛び出さないようにしてください。またその際、レールビスと干渉しない位置にてビス止めを行ってください。</p> <p>※上枠下地の裏側には、必ず20mm以上の木材を入れてください。</p> <p>※野縁は躯体にしっかりと固定してください。上枠下地が固定されている躯体に野縁が固定されていないと、クロス割れ、よれ、塗り壁の割れの原因となります。</p> <p>※縦枠下地の天井のみ込み部分は、ボードの厚み部分の欠き込みを行ってください。</p>				

## 5 中方立下地の取り付け方

<p>① 戸袋部分に小壁を立て、中方立下地を小壁に接着剤・取り付けビス(現場手配)併用にて固定します。(中方立下地は、床仕上げ面から上枠下地の下端までの長さです) その際に金物を固定する為、小壁面から70mm、床面から70mmの範囲に必ず木下地を入れてください。</p>		 <p>中方立下地</p> <p>小壁</p> <p>片方立下地</p>		 <p>戸先側</p> <p>木下地</p> <p>70</p> <p>70</p>
<p>② 戸袋側の小壁に沿わせて、見切縁を接着剤・タッカー(現場手配)併用にて取り付けます。見切縁の15mmの面に石膏ボードを載せてください。(石膏ボードは12.5mmの設定なので、2.5mmのチリが出ます)</p>	 <p>石膏ボード</p> <p>15</p> <p>見切縁</p> <p>15</p> <p>見切縁</p> <p>▽FL</p> <p>見切縁</p> <p>見切縁の取り付け</p>			
<p><b>注意</b></p> <p>※下地枠裏面には、必ず接着剤(現場手配品)を全面に塗布してください。(許ビスをお奨めします)</p> <p>※下地枠の取り付けにはしっかりと固定できるビス(現場手配品)を使用し、必ず下穴の開いている位置でビス止めしてください。</p> <p>※下地枠取り付け後にクロスで仕上げますので、ビスの頭が飛び出さないようにしてください。</p> <p>※見切縁は2本同梱されていますので、長さが足りない場合は継ぎ足してください。</p>				

# □ 2枚・3枚引込み戸(上吊)

forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2020/6

## 6 隙間隠し材の取り付け (天井ボード勝ち納まりの場合のみ)

<p>① 天井ボード勝ち納まりの場合は、上枠下地のレール溝と小壁の間に隙間隠し材を現場で正寸カットして取りつけてください。 ※パーティションシリーズのみ寸法が違うのでご注意ください。</p>			
	<p>上枠下地のレール溝と小壁の間に隙間隠し材を取りつける ※クロスの場合は33mm、塗り壁の場合は36mm</p>		
	<p>＜パーティションシリーズの場合＞ 隙間隠し材</p>		
	<p>上枠下地のレール溝と小壁の間に隙間隠し材を取りつける ※クロスの場合は30.5mm、塗り壁の場合は33.5mm</p>		
<p><b>注意</b></p>	<p>※パーティションシリーズのみ寸法が違うのでご注意ください。</p>		

## 7 縦枠下地の調整・クサビまたはパッキン材固定

<p>① 下地枠の取り付けが終わったら、同梱品の開口定規(2種類)にて下地枠内W寸法の確認をしてください。(狭い方と広い方の両方共)調整が必要な時は、手動ドライバーで縦枠下地の出し入れを行ってください。</p>			
<p>② ビスでの取り付け・調整が終わったら、縦枠下地と躯体の間にクサビ、またはパッキン(現場手配品)を接着剤併用にて入れ、固定してください。</p>		<p>柱面からクサビ等が飛び出している</p>	<p>柱面からクサビ等が飛び出していない</p>
<p><b>注意</b></p>	<p>クサビまたはパッキンの表裏に接着剤を塗布し、縦枠下地と躯体の間に差込む</p>	<p>クサビまたはパッキンの入れ方</p> <p>×</p>	<p>クサビまたはパッキンの入れ方</p> <p>○</p>
<p>※ウォールスルーが並列する場合や、その他納まりでビスがはみ出してしまう恐れがある場合については、別のビス(現場手配品)にて取り付けを行ってください。 ※クサビ、またはパッキンは、ビスとビスの間に、レーザー等で立ちを見ながら行ってください。 ※クサビ、またはパッキンが柱面から飛び出していると石膏ボードの取り付けができないので、柱面から飛び出さないようにしてください。 ※開口定規は2種類ありますので用途別に使い分けてください。(狭)・(広)</p>			

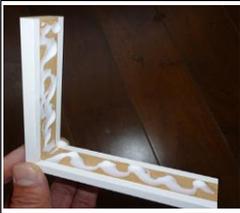
# □ 2枚・3枚引込み戸(上吊)

forステルス枠

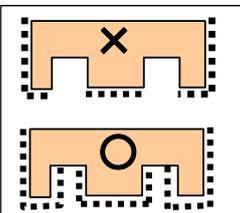
施工手順書2013/6更新

改訂2020/6

## 8 巾木施工

① 巾木を接着剤にて、縦枠下地の欠き込み部分にはめ込むように取り付けてください。(接着剤は酢ビ系をお奨めします)				
	接着剤全面塗布	下地の巾木欠き込み部分 (7×30)	下地の欠き込み部分にはめ込む様に取り付け	
<b>注意</b>	※出荷時にはシンプル巾木の欠き込み(7×30)がされています。30mm以上の巾木をご使用の場合は、現場にて高さ方向の切り欠きを行ってください。(巾木厚7mm以上の対応は行っておりません)			

## 9 クロス施工(塗り壁の場合は別紙塗り壁仕様参照)

① パテ等の下地処理をした後でクロスを貼ってください。(メッシュ→下塗り→上塗りをお奨めします) その際に、金物加工部分もクロスを巻き込んでください。				
	メッシュテープ貼り	パテ処理	金物加工部分	金物加工部分もクロスを巻き込む
				
	クロスの貼り方			
<b>注意</b>	※上枠下地のレール溝部分は、クロスを貼り伸ばしてレール溝に巻き込んでください。			

# □ 2枚・3枚引込み戸(上吊)

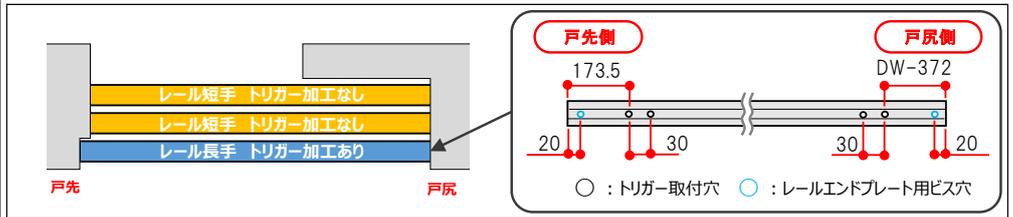
forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2020/6

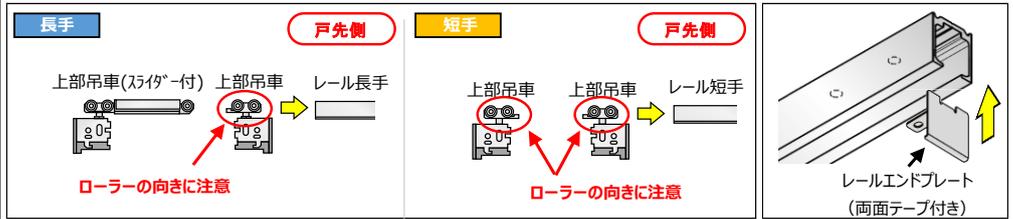
## 10 引戸レールの取り付け

① ソフトクローズ対応の引戸レールを取り付ける際は、戸先側・戸尻側の向きを確認してください(両側ソフトクローズ付の為、両側にトリガー穴加工がされていて、距離の短い方が戸先側になります)。  
レールは別途梱包にあります。



レール長手の戸先側・戸尻側の向き確認  
※レール短手はどちら向きでも取付可能

② レールを取り付ける前に、あらかじめ上部吊車をレール内部に入れてください。  
レール端部にレールエンドプレート(両面テープ付き)を両面テープで仮止めし、付属の取り付けビスで、レールとレールエンドプレートを上枠に固定してください。



上部吊車を戸先側から左右両方のレール内に入れる

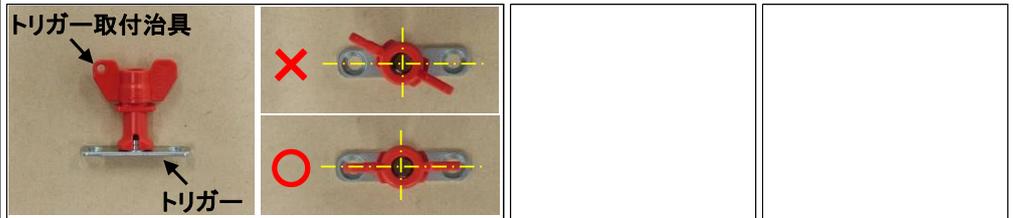
レールエンドプレート  
を両面テープで  
仮止めし、レールと  
一緒に固定する

**注意**

※上部吊車の吊車の向きに注意してください。  
※建具の開閉は、勢いよくやりすぎると金物が破損する可能性があるので注意してください。

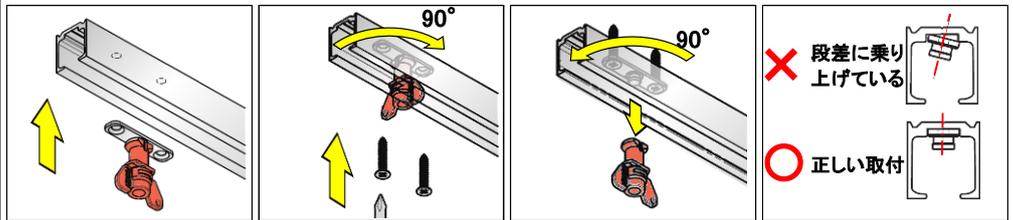
## 11 トリガーの取り付け

① トリガーを取付治具にセットします。



トリガーをトリガー取り付け治具にセット

② トリガーをトリガー取付穴に合わせてください。  
治具を90°回し、トリガーを付属ねじで取付けてください。  
治具の向きを戻し外してください。



トリガーの穴を合わせる

治具を90°回し、  
トリガーを取付ける

治具を外す

**注意**

※溝に真っ直ぐ入っていない状態でビス止めすると、トリガーが変形してしまう恐れがあるので注意してください。  
※トリガーはレールの溝部分に真っ直ぐに入るようにして、必ず手動ドライバーにて固定してください。

# □ 2枚・3枚引込み戸(上吊)

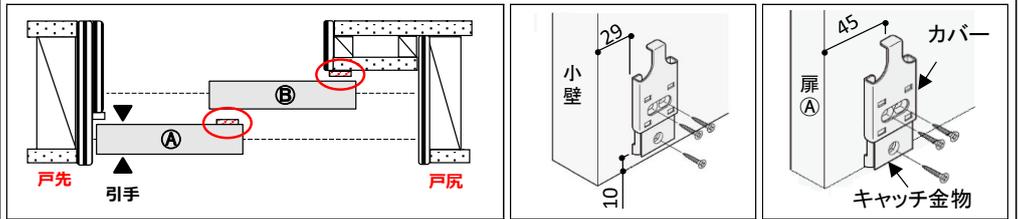
forステルス枠

施工手順書2013/6更新

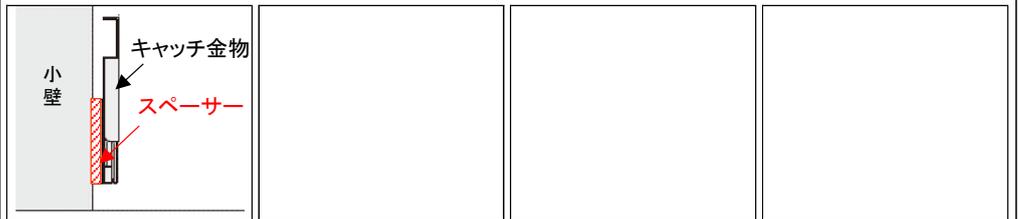
改訂2020/6

## 12-1 2枚引込み戸 連動金物の取付け (キャッチ金物の取付け)

① キャッチ金物を取付けてください。  
 小壁には、小壁の端から29mm床から10mmの位置に取付けてください。  
 手前側扉(A)は、戸尻の下部にある下穴の位置に取付けてください。  
 小壁側扉(B)には、キャッチ金物は取り付けません。  
**※塗り壁の場合**  
 スペース付きのキャッチ金物が1つ同梱されています。  
 スペース付きのキャッチ金物を小壁に取り付けてください。



<b>位置関係の確認</b> ○: キャッチ金物の取付け箇所	<b>小壁</b> キャッチ金物を取付け	<b>手前側扉(A)</b> 戸尻下部の下穴に キャッチ金物を取付け
-----------------------------------	-------------------------	--



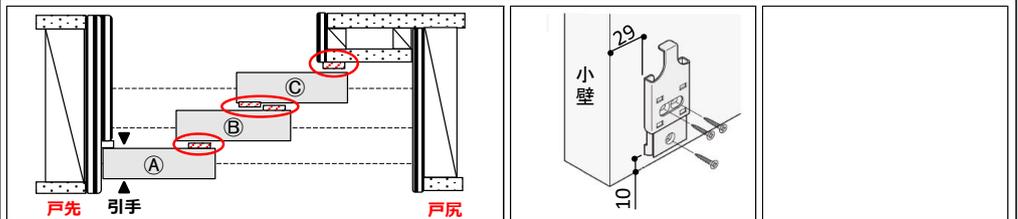
<b>小壁</b> スペース付きの キャッチ金物を取付け		
------------------------------------	--	--

**注意**

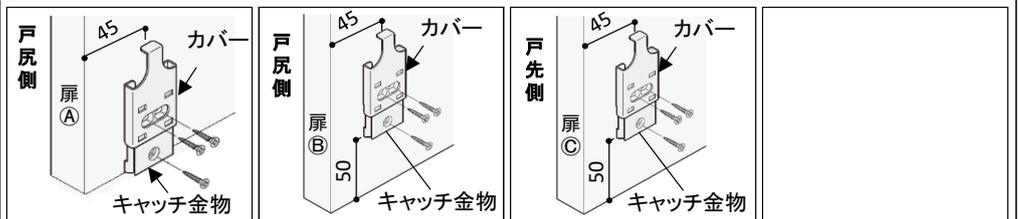
※キャッチ金物の上側2本のネジを締めすぎて樹脂を変形させないでください。樹脂部分が変形してカバーが下がらなくなる恐れがあるので注意してください。  
 ※キャッチ金物のカバーは、現時点では下ろさないでください。扉吊り込み後にジョイント金物が差し込めなくなります。  
 ※塗り壁の場合は、スペース付きのキャッチ金物を小壁に取付けてください。  
 ※ねじの頭が浮かないように取付けてください。

## 12-2 3枚引込み戸 連動金物の取付け (キャッチ金物の取付け)

① キャッチ金物を取付けてください。  
 小壁には、小壁の端から29mm床から10mmの位置に取付けてください。  
 手前側扉(A)、中央扉(B)、小壁側扉(C)には、戸尻の下部にある下穴の位置にそれぞれ取付けてください。



<b>位置関係の確認</b> ○: キャッチ金物の取付け箇所	<b>小壁</b> キャッチ金物を取付け	
-----------------------------------	-------------------------	--



<b>手前側扉(A)</b> : 戸尻下部の下穴にキャッチ金物を取付け <b>中央扉(B)</b> : 戸尻下部の下穴にキャッチ金物を取付け <b>小壁側扉(C)</b> : 戸先下部の下穴にキャッチ金物を取付け	
--	--

**注意**

※キャッチ金物の上側2本のネジを締めすぎて樹脂を変形させないでください。樹脂部分が変形してカバーが下がらなくなる恐れがあるので注意してください。  
 ※キャッチ金物のカバーは、現時点では下ろさないでください。扉吊り込み後にジョイント金物が差し込めなくなります。  
 ※手前側扉(A)のみ引き手付きとなります。中央扉(B)と小壁側扉(C)には引き手はありません。  
 ※ねじの頭が浮かないように取付けてください。

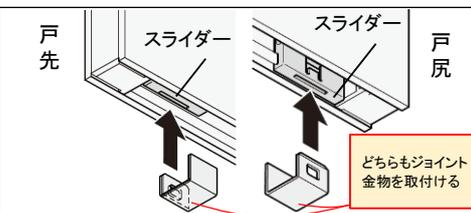
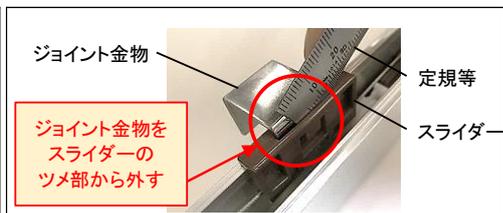
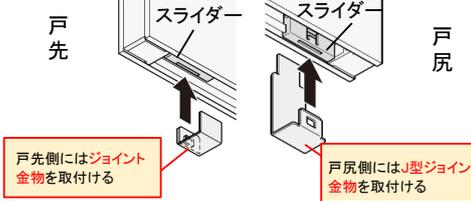
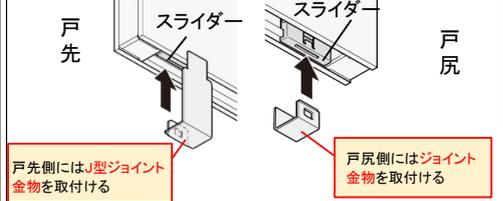
# □ 2枚・3枚引込み戸(上吊)

forステルス枠

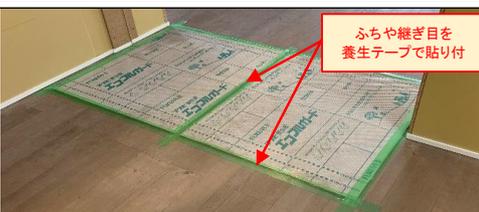
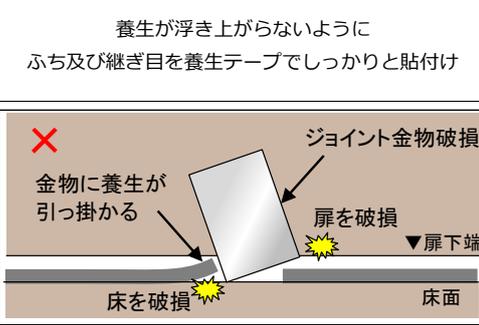
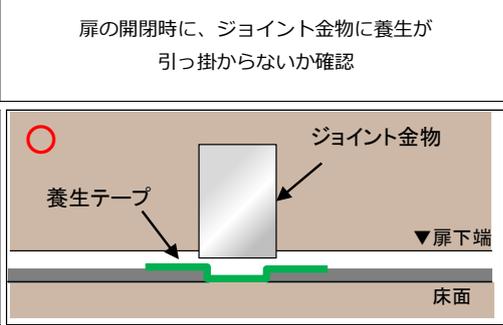
施工手順書2013/6更新

改訂2020/6

## 12-3 連動金物の取付け (ジョイント金物の取付け)

<p>① &lt;2枚引込み戸の場合&gt; 小壁側の扉の下部にあるユニット本体の-sliderにジョイント金物(穴加工側)を差し込んでください。</p>		
<p><b>小壁側扉®</b> 扉下部にあるユニット本体の-sliderにジョイント金物(穴加工側)を差し込む</p>	<p><b>※ジョイント金物を外す場合</b> ジョイント金物とsliderの隙間に定規等を差し込みツメ部から外し、引き抜く</p>	
<p>② &lt;3枚引込み戸の場合&gt; 中央の扉・小壁側の扉の下部にあるユニット本体の-sliderにジョイント金物(穴加工側)を差し込んでください。</p>		
<p><b>注意</b> ※各種ジョイント金物の位置や向きを間違えないように取付けてください。穴加工のある方をユニット本体の-sliderに差し込んでください。 ※3枚引込戸の場合は、キャッチ金物を取付けた面にJ型ジョイント金物が取り付けます。 ※各種ジョイント金物の挿入後は、扉を立てた状態で床置きしないでください。sliderに負荷が掛かり破損してしまう恐れがあります。 扉を立てる場合は、当て木等でジョイント金物に直接負荷が掛からないようにしてから置いてください。</p>	<p><b>中央扉®</b> 扉下部にあるユニット本体の-sliderにジョイント金物(穴加工側)を差し込む</p>	<p><b>小壁側扉©</b> 扉下部にあるユニット本体の-sliderにジョイント金物(穴加工側)を差し込む</p>

## 13-1 ※ドア開口の床面に養生をする場合

<p>① 養生が浮き上がらないように、ふち及び継ぎ目を養生テープでしっかりと貼付けてください。養生が扉の連動金物に引っ掛かると扉や床を傷付け、金物が破損します。</p>		
<p>養生が浮き上がらないように ふち及び継ぎ目を養生テープでしっかりと貼付け</p>		
<p><b>注意</b> ※養生が浮き上がらないように、ふち及び継ぎ目を養生テープでしっかりと貼付けてください。養生が扉の連動金物に引っ掛かると扉や床を傷付け、金物が破損します。</p>	<p>養生が浮いて、金物に引っ掛かる</p>	<p>金物に養生が引っ掛からず、開閉が出来る</p>

# □ 2枚・3枚引込み戸(上吊)

forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2020/6

## 13-2 建具の吊り込み (固定カップと上部吊車の連結)

<p>① 建具を起こしていきながら、建具上部の固定カップとレール内にある上部吊車を連結し、吊り込んでください。</p>	<p>押す</p>	<p>パチン</p>	<p>目印 レバー</p> <p>レバー 目印</p>
	<p>固定カップと上部吊車を連結する</p>	<p>パチンの音を確認</p>	<p>上部吊車のレバーの位置を確認する</p>
<p>② &lt;2枚引込み戸の場合&gt; 扉Aと扉Bは連結させやすいよう、重ねておいてください。 &lt;3枚引込み戸の場合&gt; 扉Aは戸尻側に寄せ、扉Bと扉Cは連結させやすいよう、重ねておいてください。</p>	<p>2枚引込み戸の場合</p> <p>戸先側</p> <p>戸尻側</p>	<p>3枚引込み戸の場合</p> <p>戸先側</p> <p>戸尻側</p>	
	<p>扉Aと扉Bは連結させやすいよう、重ねておく</p>	<p>扉Aは戸尻側に寄せ、扉Bと扉Cは連結させやすいよう、重ねておく</p>	
<p><b>注意</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※建具を持ち上げる際は天井に建具がぶつからない様に気を付けてください。</li> <li>※上部吊車と固定カップは、パチンと音が鳴るまで連結させてください。最後まで入っていないと、使用中、外れる恐れがあります。</li> <li>※吊車を取り外す際、素手で外れない場合は、プライヤー等工具を使用し取り外してください。</li> <li>※建具の開閉は、勢いよくやりすぎると金物が破損する可能性がありますので注意してください。</li> <li>※3枚引込み戸の場合は、必ず扉B・Cをジョイント金物分ずらして重ねておいてください。戸先と戸尻それぞれのキャッチ金物を連結させる為必要となります。</li> </ul>			

## 13-3 2枚引き込み戸 建具の吊り込み (キャッチ金物とジョイント金物の連結)

<p>① &lt;扉A・Bの連結&gt; 扉Aの戸尻側のキャッチ金物に扉Bのジョイント金物を横から指し込みます。 ドライバーや定規等でキャッチ金物のカバーを下ろしてください。</p>	<p>連結部</p> <p>戸先側</p>	<p>扉B</p> <p>扉Aのキャッチ金物</p> <p>扉Bのジョイント金物</p> <p>扉A</p>	<p>定規等</p>
	<p>扉A・Bの戸尻を連結</p>	<p>扉Aのキャッチ金物に、扉Bのジョイント金物を横から指込む</p>	<p>ドライバーや定規等でキャッチのカバーを下ろす</p>
<p>② &lt;扉Bと小壁の連結&gt; 小壁のキャッチに、扉Bのジョイント金物を横から差込みます。 ドライバーや定規等でキャッチ金物のカバーを下ろしてください。</p>	<p>連結部</p> <p>戸尻側</p>	<p>小壁のキャッチ</p> <p>小壁</p> <p>扉Bのジョイント金物</p> <p>扉B</p>	<p>小壁</p> <p>B</p> <p>A</p>
	<p>扉Bと小壁の連結</p>	<p>小壁のキャッチ金物に、扉Bのジョイント金物を横から差込みドライバーや定規等でキャッチ金物のカバーを下ろす</p>	<p>連動金物納まり</p>
<p><b>注意</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※ジョイント金物をキャッチ金物に差し込み後、必ずキャッチ金物のカバーを下ろしてください。</li> </ul>			

# □ 2枚・3枚引込み戸(上吊)

forステルス枠

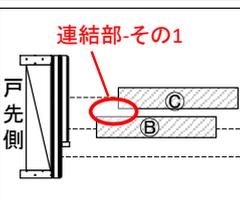
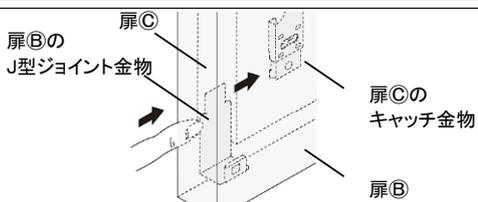
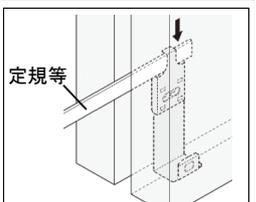
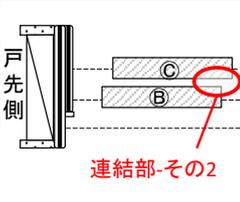
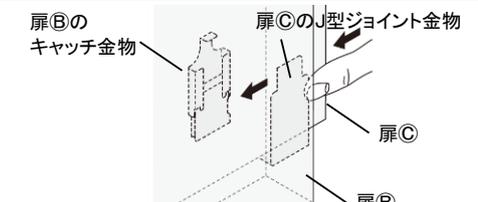
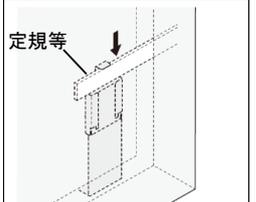
施工手順書2013/6更新

改訂2020/6

## 13-4 ※キャッチ金物とジョイント金物の連結を解除する場合

<p>① キャッチ金物にジョイント金物を差し込んだ後、やむを得ず扉を外す場合は、ジョイント金物が差し込まれたキャッチ金物の隙間にマイナスドライバー等を差し込みツメ部から外し、扉ごと引き抜いてください。</p>	<p>※実際にはジョイント側にも扉があります</p>  <p>ジョイント金物をキャッチ金物のツメ部から外す</p>	
	<p>ジョイント金物とキャッチ金物の隙間にマイナスドライバー等を差し込みツメ部から外し、扉ごと引き抜く</p>	
<p><b>注意</b></p>		

## 13-5 3枚引込み戸 建具の吊り込み (キャッチ金物とJ型ジョイント金物の連結)

<p>① &lt;扉Bの連結-その1&gt; 扉Cの戸先側のキャッチ金物に扉BのJ型ジョイント金物を差し込みます。(指先でJ型ジョイント金物をキャッチ金物に押し込んで確認してください。) ドライバーや定規等でキャッチ金物のカバーを下ろします。</p>			
<p>② &lt;扉Bの連結-その2&gt; 扉Bのキャッチ金物に、扉CのJ型ジョイント金物を横から指し込みます。(指先でJ型ジョイント金物をキャッチ金物に押し込んで確認してください。) ドライバーや定規等でキャッチ金物のカバーを下ろしてください。</p>			
<p><b>注意</b></p>	<p>※J型ジョイント金物は差し込み難い為、必ず指で押し込み連結しているか確認してください。 ※ジョイント金物をキャッチ金物に差し込み後、必ずキャッチ金物のカバーを下ろしてください。</p>		

# □ 2枚・3枚引込み戸(上吊)

forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2020/6

## 13-6 3枚引込み戸 建具の吊り込み (キャッチ金物とジョイント金物の連結)

<p>③ &lt;扉A⑥の連結&gt; 扉⑥⑦を戸先側へ移動させて、扉Aのキャッチ金物に扉⑥のジョイント金物を横から差し込みます。 ドライバーや定規等でキャッチ金物のカバーを下ろしてください。</p>	<p>戸先側 連結部</p>	<p>扉⑥のジョイント金物 扉Aのキャッチ金物 扉A</p>	<p>定規等</p>
<p>扉A⑥の戸尻を連結</p>	<p>扉Aのキャッチ金物に扉⑥のジョイント金物を横から差し込む</p>	<p>ドライバーや定規等でキャッチ金物のカバーを下ろす</p>	
<p>④ &lt;扉③と小壁の連結&gt; 扉3枚を少し開いた状態で戸尻側に移動させてください。 壁のキャッチに、扉③のジョイント金物を横から差し込みます。 ドライバーや定規等でキャッチ金物のカバーを下ろしてください。</p>	<p>連結部 戸尻側</p>	<p>小壁のキャッチ金物 小壁 扉③のジョイント金物 扉C</p>	<p>小壁 C B A</p>
<p>扉3枚を少し開いた状態で戸尻側に移動させる</p>	<p>小壁のキャッチ金物に、扉③のジョイント金物を横から差し込みドライバーや定規等でキャッチのカバーを下ろす</p>	<p>連動金物納まり</p>	
<p><b>注意</b></p>	<p>※ジョイント金物をキャッチ金物に差し込み後、必ずキャッチ金物のカバーを下ろしてください。 ※ジョイント金物をキャッチ金物に差し込んだ後、やむを得ず扉を外す場合「手順13-4①」を参照してください。</p>		

## 14 上部吊車の調整

<p>① 吊り込み後に上部吊車で調整をする際は、上下調整は下側のネジ、左右調整は上側のネジにて、手動ドライバーで行ってください。</p>	<p>下 上</p>	<p>右 左</p>	<p>【調整範囲】 上方向3.0mm 下方向4.0mm 左右方向±2.0mm</p>	
<p>上部吊車 上下の調整</p>	<p>上部吊車 左右の調整</p>			
<p><b>注意</b></p>	<p>※調整の際に電動ドライバーは使用しないでください。 ※戸先側と戸尻側の木口で調整方法が反転しますので、ご注意ください。</p>			

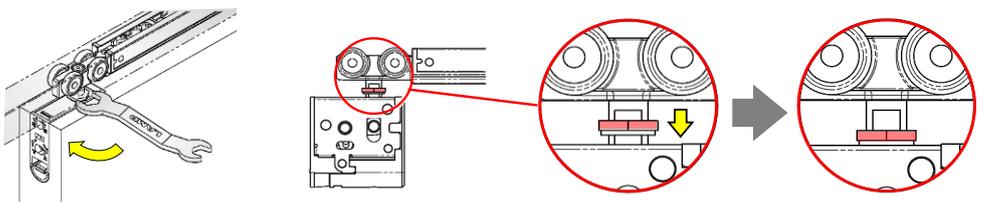
# □ 2枚・3枚引込み戸(上吊)

forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2020/6

## 15 化粧カバーの取付け・跳ね上がり防止ナットの固定

<p>① 全ての調整を終えたら、化粧カバーを取付けてください。 外す場合は、化粧カバーの溝にマイナスドライバー等を差し込み外してください。</p>				
<p>化粧カバーを取付ける</p>	<p>※化粧カバーを外す場合 化粧カバーの溝に マイナスドライバー等を 差し込み外す</p>			
<p>② 両側のローラー吊軸の跳ね上がり防止ナットを、本体に接触するまでスパナで締めてください。</p>				
	<p>両側のローラー吊軸の跳ね上がり防止ナットを、本体に接触するまでスパナで締める</p>			
<p><b>注意</b></p>	<p>※跳ね上がり防止ナット必ず締めてください。締め忘れは、故障・破損の原因になります。 ※跳ね上がり防止ナットは締めすぎないでください。締めすぎると扉が下がり調整がずれます。</p>			

# □ 3枚引違い戸(上吊+床付レール・連動タイプ)

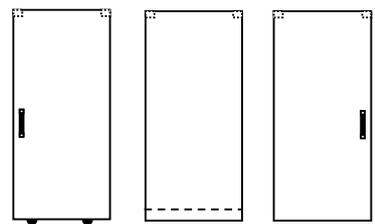
forステルス枠

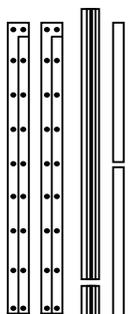
施工手順書2013/6更新

改訂2020/6

## ■ 製品及び同梱内容の確認

- 製品を開梱して、同梱品に間違いがないか確認をお願いします。

建具			同 梱 品					
部材	数量	備考						
引き戸	1枚	引手取付済み(スリット手掛けタイプはなし) 固定カップ取付済み 戸車取付済み						
	1枚	固定カップ取付済み ユニット本体取付済み						
	1枚	引手取付済み 固定カップ取付済み						
								

下地枠			同 梱 品	施工手順書				
部材	数量	備考						
縦枠下地	2本							
上枠下地	2本	2本に分割されています						
開口定規	2本	下地枠内寸法用 (2本に分割されています)						
 <div data-bbox="383 1176 646 1321" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>※下地枠外寸法開口定規は同梱されておりません。 ※上枠下地及び開口定規は2421mm以上の場合2分割されています。</p> </div>								



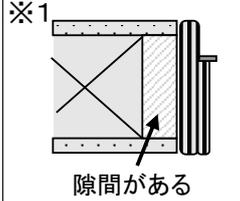
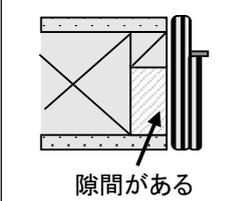
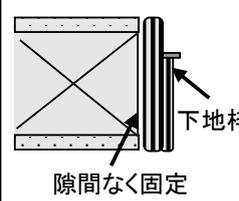
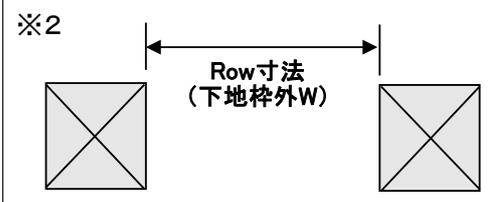
# □ 3枚引違い戸(上吊+床付レール・連動タイプ)

forステルス枠

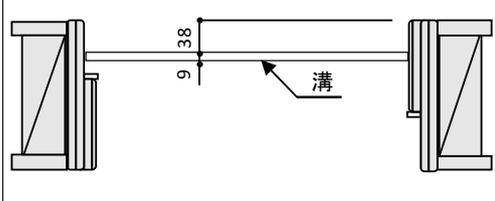
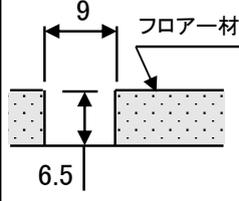
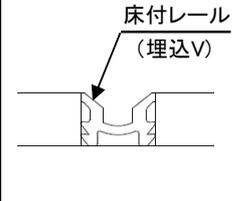
施工手順書2013/6更新

改訂2020/6

## 1-1 施工前の確認事項

① 下地枠を取り付ける前に、開口部の巾（図面：ROW寸法）と、高さ（図面：床仕上～開口高さ）の確認をしてください。 （縦枠下地は、床仕上げ面からの立ち上がりとなっているので注意してください）	 <p>※1 隙間がある</p>	 <p>※1 隙間がある</p>	 <p>※1 隙間なく固定</p>	
	×	×	○	
	 <p>※2 Row寸法 (下地枠外W)</p>			
	図面上のRow寸法（下地枠外W）の確認			
<b>注意</b>	※1：下地枠は躯体（構造材）に取り付けますので、下地枠の裏側部分には必ず木材を全面に入れておいてください。 ※2：施工前のW寸法確認は、図面上のRow寸法（下地枠外W）を確認してください。 ※開口部（柱・まぐさ等）の水平・垂直・前後の倒れ・ねじれ等がないか、水平器等で精度を十分に確認してください。			

## 1-2 施工前の確認事項（床付レール（埋込V）取付の場合）

① 床付けレール（埋込V）を床に取り付ける場合、右図の所定位置に、床付レール（埋込V）を埋め込む溝を確保してください。 縦枠面から縦枠面まで、巾9mm 深さ6.5mmの溝を確保してください。	 <p>溝</p>	 <p>9 フロー材 6.5</p>	 <p>床付レール (埋込V)</p>	
	床付レール（埋込V）の取り付け溝位置	床付レール（埋込V）の取り付け溝断面	床付レール（埋込V）の納まり図	
<b>注意</b>	※床付レール（埋込V）は内外どちら側かを選択出来ます。現場にてお決めください。 ※床付レール（埋込V）がきつ不入りなったり、緩くて外れてしまわないように、床付レール（埋込V）を埋め込む溝の中は指定の寸法9mmを守ってください。また、段差が出来ないように、溝の深さも指定の寸法6.5mmにしてください。 ※床付レール（埋込V）を埋め込む溝は、縦枠面から縦枠面までとなります。			

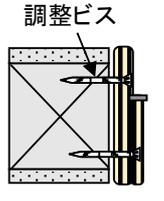
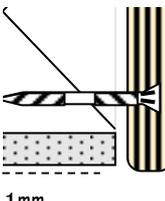
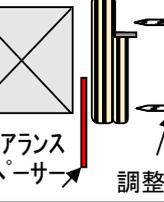
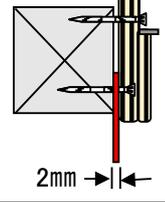
# □ 3枚引違い戸(上吊+床付レール・連動タイプ)

forステルス枠

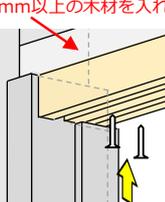
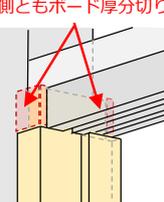
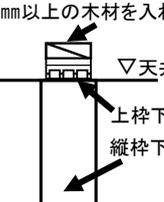
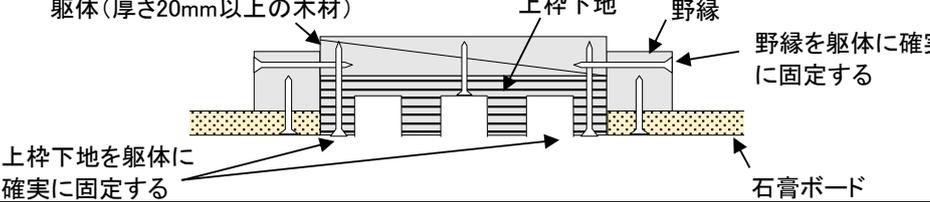
施工手順書2013/6更新

改訂2020/6

## 2 縦枠下地の取り付け

<p>① 縦枠下地を柱に固定します。 (向って左側は下地断面が厚い方、右側は薄い方) 枠の位置は壁厚の真ん中に置き、柱にあててレーザー等で立ちを見ながら、同梱されている調整ビスにて枠の固定を行ってください。(縦枠下地は壁厚より1mmずつチリが出ます)</p>	 <p>調整ビス</p>	 <p>1mm</p>	 <p>ビスの止め方 × 頭が飛出している</p>	 <p>ビスの止め方 ○ 頭が飛出していない</p>
<p>② 取り付けの際に、調整ビスの中に同梱されているクリアランススペーサー(2mm)を躯体と枠の間に入れ、クリアランスを保ち、ビス固定を行ってください。(図面寸法：躯体と縦枠下地のクリアランスは2mm) また、縦枠下地の裏側下部にあらかじめ2mmのパッキン材がついています。</p>	 <p>クリアランススペーサー 調整ビス</p>	 <p>2mm</p>		 <p>パッキン材</p>
<p><b>注意</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※縦枠下地の下部裏側に、あらかじめ2mmのパッキン材が取り付けられていますので、枠内寸法が確保できない場合以外は外さないでください。</li> <li>※クリアランススペーサーが抜けかない場合は、手動ドライバーにて少しゆるめてから外してください。</li> <li>※躯体がスタッドの場合は、石膏ボードに直接、縦枠下地を取り付けると調整ビスが利かないので、必ず間に木材(15mm以上)を入れてください。</li> <li>※調整ビスを何度も出し入れすると、ビス穴が広がり調整が利かなくなる可能性があるため、その際は別の所で再度、取り付けを行ってください。</li> </ul>				

## 3-1 上枠下地の取り付け(上枠勝ち納まりの場合)

<p>① 上枠下地を接着剤・取り付けビス(現場手配品)併用にてまぐさに固定します。上枠下地の取り付け位置は、縦枠下地と同様に壁厚の真ん中に取り付けてください。(縦勝ちに納まります) 上枠下地の裏側には、20mm以上の木材を入れてください。</p>		 <p>20mm以上の木材を入れる</p>	 <p>両側ともボード厚分切り欠く</p>	 <p>20mm以上の木材を入れる ▽天井 上枠下地 縦枠下地</p>
<p>② 上枠下地と石膏ボードを連続して納める場合、野縁を躯体にしっかりと固定します。その際、石膏ボードの厚さを確保してしてください。その後、石膏ボードを上枠下地に合わせて野縁に固定してください。</p>	 <p>躯体(厚さ20mm以上の木材) 上枠下地 野縁 野縁を躯体に確実に固定する 上枠下地を躯体に確実に固定する 石膏ボード</p> <p>石膏ボードの厚さを確保して、野縁を躯体に固定 その後、野縁に石膏ボードを取付ける</p>			
<p><b>注意</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※下地枠裏面には、必ず接着剤(現場手配品)を全面に塗布してください。(許ビス系をお奨めします)</li> <li>※下地枠の取り付けにはしっかりと固定できるビス(現場手配品)を使用し、必ず下穴の開いている位置でビス止めしてください。</li> <li>※下地枠取り付け後にクロスで仕上げますので、ビスの頭が飛び出さないようにしてください。またその際、レールビスと干渉しない位置にてビス止めを行ってください。</li> <li>※上枠下地の裏側には、必ず20mm以上の木材を入れてください。</li> <li>※野縁は躯体にしっかりと固定してください。上枠下地が固定されていないと、クロス割れ、よれ、塗り壁割れの原因となります。</li> <li>※縦枠下地の天井のみ込み部分は、ボードの厚み部分の欠き込みを行ってください。</li> </ul>				

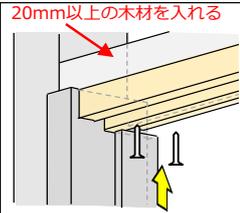
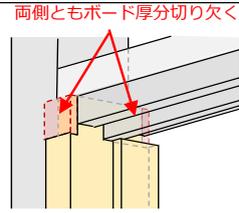
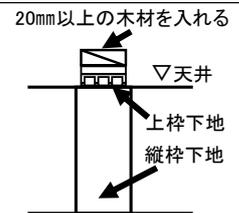
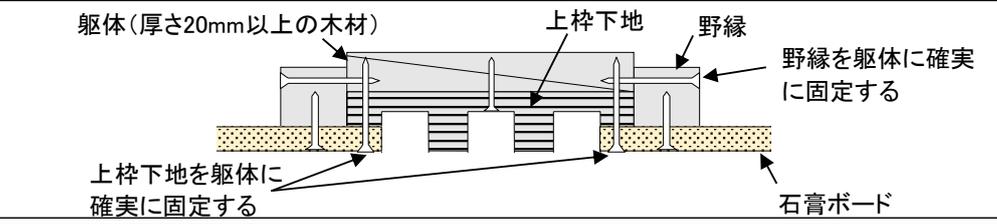
# □ 3枚引違い戸(上吊+床付レール・連動タイプ)

forステルス枠

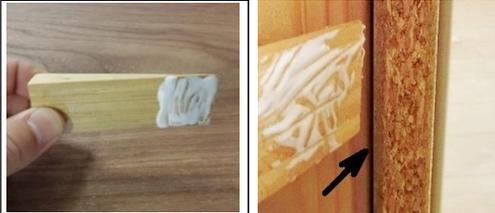
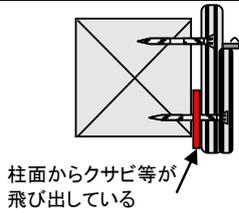
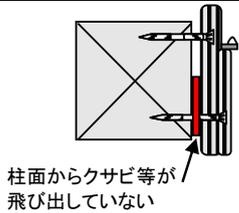
施工手順書2013/6更新

改訂2020/6

## 3-2 上枠下地の取り付け

<p>① 上枠下地を接着剤・取り付けビス(現場手配品)併用にてまぐさに固定します。上枠下地の取り付け位置は、縦枠下地と同様に壁厚の真ん中に取り付けてください。(縦勝ちに納まります) 上枠下地の裏側には、20mm以上の木材を入れてください。</p>		 <p>20mm以上の木材を入れる</p>	 <p>両側ともボード厚分切り欠く</p>	 <p>20mm以上の木材を入れる ▽天井 上枠下地 縦枠下地</p>
<p>② 野縁を躯体にしっかりと固定します。その際、石膏ボードの厚さ分を確保してしてください。その後、石膏ボードをレール溝に合わせて野縁と上枠下地に固定してください。</p>	 <p>野縁を躯体に確実に固定する</p> <p>石膏ボードの厚さ分を確保して、野縁を躯体に固定 その後、野縁と上枠下地に石膏ボードを取付ける</p>			
<p><b>注意</b></p> <p>※下地枠裏面には、必ず接着剤(現場手配品)を全面に塗布してください。(許ビス系をお奨めします)</p> <p>※下地枠の取り付けにはしっかりと固定できるビス(現場手配品)を使用し、必ず下穴の開いている位置でビス止めしてください。</p> <p>※下地枠取り付け後にクロスで仕上げますので、ビスの頭が飛び出さないようにしてください。またその際、レールビスと干渉しない位置にてビス止めを行ってください。</p> <p>※上枠下地の裏側には、必ず20mm以上の木材を入れてください。</p> <p>※野縁は躯体にしっかりと固定してください。上枠下地が固定されている躯体に野縁が固定されていないと、クロス割れ、よれ、塗り壁の割れの原因となります。</p> <p>※縦枠下地の天井のみ込み部分は、ボードの厚み部分の欠き込みを行ってください。</p>				

## 4 縦枠下地の調整・クサビまたはパッキン材固定

<p>① 下地の取り付けが終わったら、同梱品の開口定規にて下地枠内W寸法の確認をしてください。調整が必要な時は、手動ドライバーにて縦枠下地の出し入れを行ってください。</p>	 <p>下地枠内W 下地枠内W</p>		
<p>② ビスでの取り付け・調整が終わったら、縦枠下地と躯体の間にクサビ、またはパッキン(現場手配品)を接着剤併用にて入れて固定してください。</p>	 <p>クサビまたはパッキンの表裏に接着剤を塗布し、縦枠下地と躯体の間に差込む</p>	 <p>柱面からクサビ等が飛び出している</p> <p>クサビまたはパッキンの入れ方</p> <p>×</p>	 <p>柱面からクサビ等が飛び出していない</p> <p>クサビまたはパッキンの入れ方</p> <p>○</p>
<p><b>注意</b></p> <p>※ウォールスルーが並列する場合や、その他納まりでビスがみ出してしまふ恐れがある場合については、別のビス(現場手配品)にて取り付けを行ってください。</p> <p>※クサビ、またはパッキンは、ビスとビスの間に入れ、レーザー等で立ちを見ながら行ってください。</p> <p>※クサビ、またはパッキンが柱面から飛び出していると石膏ボードの取り付けができないので、柱面から飛び出さないようにしてください。</p>			

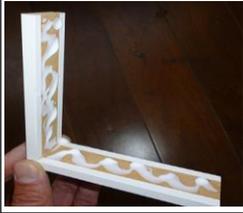
# □ 3枚引違い戸(上吊+床付レール・連動タイプ)

forステルス枠

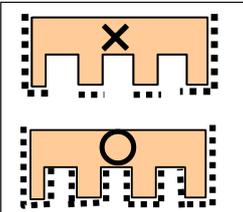
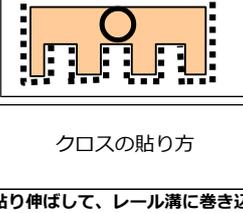
施工手順書2013/6更新

改訂2020/6

## 5 巾木施工

① 巾木を接着剤にて、縦枠下地の欠き込み部分にはめ込むように取り付けてください。(接着剤は酢ビ系をお奨めします)				
	接着剤全面塗布	下地の巾木欠き込み部分 (7×30)	下地の欠き込み部分にはめ込む様に取り付け	
<b>注意</b>	※出荷時には、シンプル巾木の欠き込み (7×30) がされています。30mm以上の巾木をご使用の場合は、現場にて高さ方向の切り欠きを行ってください。(巾木厚さ7mm以上の対応は行っておりません)			

## 6 クロス施工(塗り壁の場合 別紙塗り壁仕様参照)

① パテ等の下地処理をした後で、クロスを貼ってください。 (メッシュ→下塗り→上塗りをお奨めします) その際に、金物加工部分もクロス巻き込んでください。				
	メッシュテープ貼り	パテ処理	金物加工部分	金物加工部分もクロス巻き込む
				
				
	クロスの貼り方			
<b>注意</b>	※上枠下地のレール溝部分はクロスを貼り伸ばして、レール溝に巻き込んでください。			

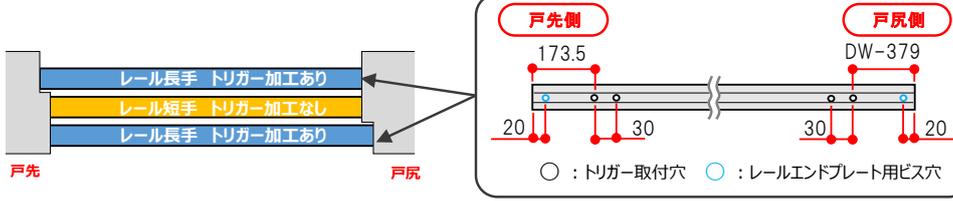
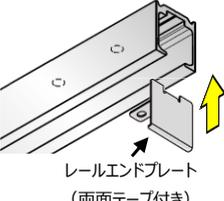
# □ 3枚引違い戸(上吊+床付レール・連動タイプ)

forステルス枠

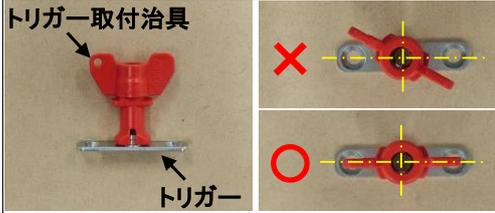
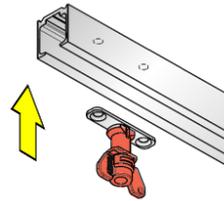
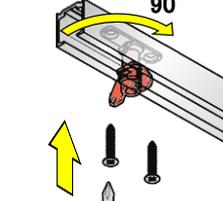
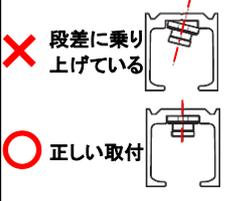
施工手順書2013/6更新

改訂2020/6

## 7 引戸レールの取り付け

<p>① ソフトクローズ対応の引戸レールを取り付ける際は、戸先側・戸尻側の向きを確認してください。(両側ソフトクローズ付の為、両側にトリガー穴加工がされており、距離の短い方が戸先側になります)</p> <p>中央の引き戸レールは、トリガー加工無しの物を取付けてください。</p> <p>レールは別途梱包にあります。</p>	 <p>レール長手の戸先側・戸尻側の向き確認</p> <p>※レール短手はどちら向きでも取付可能</p>	
<p>② レールを取り付ける前に、あらかじめ上部吊車を戸先側からレール内に入れてください。レール端部にレールエンドプレート(両面テープ付き)を面テープで仮止めし、付属の取り付けビスで、レールとレールエンドプレートを上枠に固定してください。レールは別途梱包にあります。</p>	 <p>上部吊車を戸先側から左右両方のレール内に入れる</p>	 <p>レールエンドプレート(両面テープ付き)</p> <p>レールエンドプレートを両面テープで仮止めし、レールと一緒に固定する</p>
<p><b>注意</b></p>	<p>※溝に真っ直ぐ入っていない状態でビス止めすると、トリガーが変形してしまう恐れがあるので注意してください。</p> <p>※トリガーはレールの溝部分に真っ直ぐに入るようにして、必ず手動ドライバーにて固定してください。</p>	

## 8 トリガーの取り付け

<p>① トリガーを取付治具にセットします。</p>	 <p>トリガーを取付治具にセット</p>		
<p>② トリガーを取付穴に合わせてください。治具を90°回し、トリガーを付属ねじで取付けてください。治具の向きを戻し外してください。</p>	 <p>トリガーの穴を合わせる</p>	 <p>治具を90°回し、トリガーを取付ける</p>	 <p>段差に乗り上げている (Red X)</p> <p>正しい取付 (Red circle)</p>
<p><b>注意</b></p>	<p>※溝に真っ直ぐ入っていない状態でビス止めすると、トリガーが変形してしまう恐れがあるので注意してください。</p> <p>※トリガーはレールの溝部分に真っ直ぐに入るようにして、必ず手動ドライバーにて固定してください。</p>		

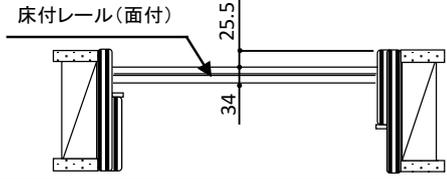
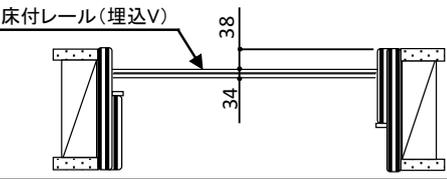
# □ 3枚引違い戸(上吊+床付レール・連動タイプ)

forステルス枠

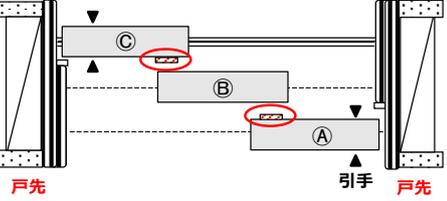
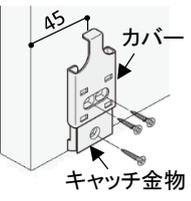
施工手順書2013/6更新

改訂2020/6

## 9 床付レールの取り付け(金物は別途金物箱にあります)

<p>① 床付レール(面付)を床に取り付けます。右図の所定位置に付属のビスで取り付けてください。 ビスの取付は、中央から始め両端側の順に止めてください。</p>		
<p>② 床付レール(埋込V)の場合 床付レール(埋込V)に当て木をして、溝に埋め込んでください。</p>		
<p><b>注意</b></p>	<p>※床付レールは内外どちら側かを選択出来ます。現場にてお決めください。          ※床付レール(面付)の取り付けの際、ビスを締め付けすぎるとレールが変形する恐れがありますので、最後の締め付けは必ず手動ドライバーで行ってください。          ※床材の伸縮によりレールが浮いた場合は、一度取外して再取付してください。その際、必要に応じレール裏面に両面テープを付けてください。          ※床付レール(埋込V)の溝巾が広くなってしまう、レールが外れてしまう場合には、両面テープ(現場手配品)をレールの底面に貼り付けて対応してください。</p>	

## 10-1 連動金物の取付け(キャッチ金物の取付け)

<p>① 引き手のある扉下部にある下穴にキャッチ金物を取付けてください。 中央の扉には、キャッチ金物は取り付けません。</p>		
	<p>位置関係の確認 ○: キャッチ金物の取付け箇所</p>	<p>手前側扉(A)C: 下穴にキャッチ金物を取付け</p>
<p><b>注意</b></p>	<p>※キャッチ金物の上側2本のネジを締めすぎて樹脂を変形させないでください。樹脂部分が変形してカバーが下がらなくなる恐れがあるので注意してください。          ※キャッチ金物のカバーは、現時点では下ろさないでください。扉吊り込み後にジョイント金物が差し込めなくなります。          ※ねじの頭が浮かないように取付けてください。</p>	

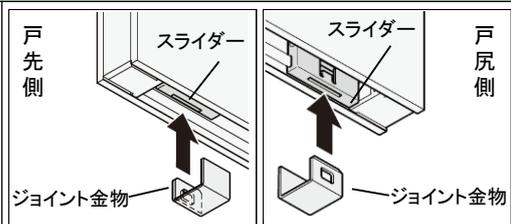
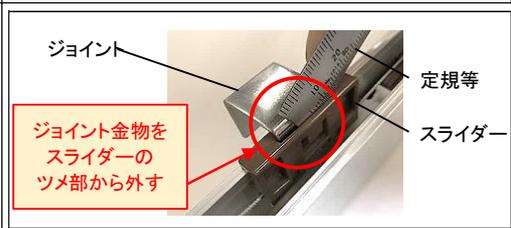
# □ 3枚引違い戸(上吊+床付レール・連動タイプ)

forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2020/6

## 10-2 連動金物の取付け (ジョイント金物の取付け)

<p>① 中央の扉下部にあるユニット本体の滑り台部にジョイント金物（穴加工側）を差し込んでください。</p>	 <p>戸先側</p> <p>戸尻側</p> <p>ジョイント金物</p> <p>滑り台</p>		
<p>※ジョイント金物を外す場合 滑り台にジョイント金物を差し込んだ後、やむを得ず外す場合は、ジョイント金物と滑り台の隙間に定規等を差し込みツメ部から外し、引き抜いてください。</p>	 <p>ジョイント</p> <p>ジョイント金物を滑り台のツメ部から外す</p> <p>定規等</p> <p>滑り台</p>		
<p><b>注意</b></p> <p>※各種ジョイント金物の位置や向きを間違えないように取付けてください。 ※ジョイント金物は穴加工のある方をユニット本体の滑り台に差し込んでください。 ※各種ジョイント金物の挿入後は、扉を立てた状態で床置きしないでください。滑り台に負荷が掛かり破損してしまう恐れがあります。 扉を立てる場合は、当て木等でジョイント金物に直接負荷が掛からないようにしてから置いてください。</p>	<p>中央の扉下部にあるユニット本体の滑り台部にジョイント金物（穴加工側）を差し込む</p> <p>ジョイント金物と滑り台の隙間に定規等を差し込みツメ部から外し、引き抜く</p>		

## 11-1 ※ドア開口の床面に養生をする場合

<p>① 養生が浮き上がらないように、ふち及び継ぎ目を養生テープでしっかりと貼付けてください。養生が扉の連動金物に引っ掛かると扉や床を傷付け、金物が破損します。</p>	 <p>ふちや継ぎ目を養生テープで貼り付</p>	 <p>扉の開閉時に、ジョイント金物に養生が引っ掛からないか確認</p>	
<p><b>×</b> 金物に養生が引っ掛かる</p> <p>ジョイント金物破損</p> <p>扉を破損</p> <p>床を破損</p> <p>床面</p> <p>扉下端</p>	<p>養生が浮いて、金物に引っ掛かる</p>	<p><b>○</b> 養生テープ</p> <p>ジョイント金物</p> <p>床面</p> <p>扉下端</p>	<p>金物に養生が引っ掛からず、開閉が出来る</p>
<p><b>注意</b></p>	<p>※養生が浮き上がらないように、ふち及び継ぎ目を養生テープでしっかりと貼付けてください。養生が扉の連動金物に引っ掛かると扉や床を傷付け、金物が破損します。</p>		

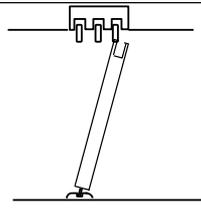
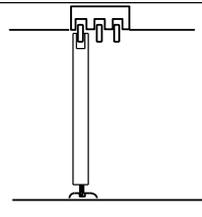
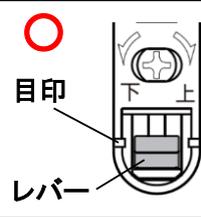
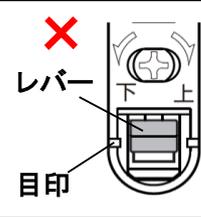
# □ 3枚引違い戸(上吊+床付レール・連動タイプ)

forステルス枠

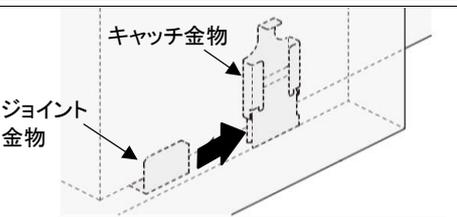
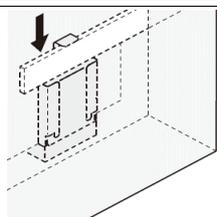
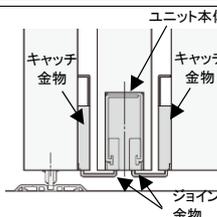
施工手順書2013/6更新

改訂2020/6

## 11-2 建具の吊り込み (固定カップと上部吊車の連結)

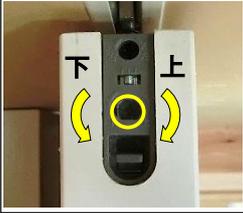
<p>① 先ず戸車付きの扉から、吊り込みます。 建具の戸車を床付レールの溝にはめ込み、建具を起こしていきながら上部レールの吊車と、建具の固定カップを連結させます。</p>				
<p>② 次に2枚目(ユニット本体付の扉)、3枚目の建具も1枚目と同様に、建具を起こしていきながら、上部のレールの吊車と建具の固定カップを連結させて吊り込み完了です。</p>				
<p><b>注意</b></p> <p>※建具を持ち上げる際は天井に建具がぶるからない様に気を付けてください。          ※上部吊車と固定カップは、パチンと音が鳴るまで連結させてください。最後まで入っていないと、使用中、外れる恐れがあります。          ※吊車を取り外す際、素手で外れない場合は、プライヤー等工具を使用し取り外してください。          ※建具の開閉は、勢いよくやりすぎると金物が破損する可能性がありますので注意してください。</p>	<p>戸車を床付レールの溝にはめ込む</p>	<p>上部の吊車と建具の固定カップを連結させる</p>		

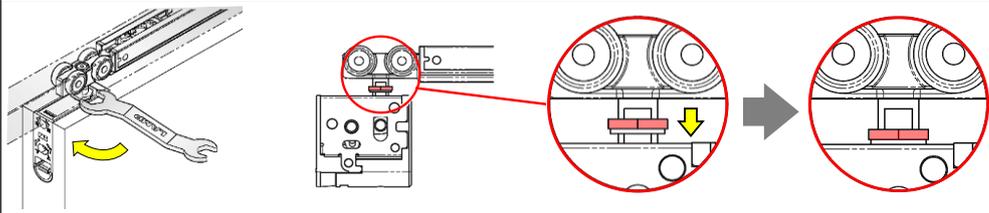
## 11-3 建具の吊り込み (キャッチ金物とジョイント金物の連結)

<p>① 中央の扉に取付けたジョイント金物を、連結させる扉に取付けたキャッチ金物へ横から差し込みます。 ジョイント金物がしっかり差し込まれた事を確認後、ドライバーや定規等で、キャッチのカバーを下ろします。</p>			
<p>※扉を外す場合 キャッチ金物にジョイント金物を差し込んだ後、やむを得ず扉を外す場合は、ジョイント金物が差し込まれたキャッチ金物の隙間にマイナスドライバー等を差し込みツメ部から外し、扉ごと引き抜いてください。</p>	<p>※実際にはジョイント側にも扉があります</p> 	<p>ジョイント金物をキャッチ金物へ横から差し込む</p>	<p>ドライバーや定規等でキャッチのカバーを下ろす</p>
<p><b>注意</b></p> <p>※ジョイント金物をキャッチ金物に差し込み後、必ずキャッチ金物のカバーを下ろしてください。</p>	<p>ジョイント金物とキャッチ金物の隙間にマイナスドライバー等を差し込みツメ部から外し、扉ごと引き抜く</p>		<p>連動金物納まり</p>

# □ 3枚引違い戸(上吊+床付レール・連動タイプ)

forステルス枠  
 施工手順書2013/6更新  
 改訂2020/6

12 上部吊車の調整			
① 吊り込み後に上部吊車にて調整を行う際は、上下調整は下側のネジ、左右調整は上側のネジにて、手動ドライバーで行ってください。			<b>【調整範囲】</b> 上方向3.0mm 下方向4.0mm 左右方向±2.0mm
	上部吊車 上下の調整	上部吊車 左右の調整	
<b>注意</b> ※調整の際に電動ドライバーは使用しないでください。 ※戸先側と戸尻側の木口で調整方法が反転しますので、ご注意ください。			

13 化粧カバーの取付け・跳ね上がり防止ナットの固定			
① 全ての調整を終えたら、化粧カバーを取付けてください。 外す場合は、化粧カバーの溝にマイナスドライバー等を差し込み外してください。			
	化粧カバーを取付ける	※化粧カバーを外す場合 化粧カバーの溝に マイナスドライバー等を 差し込み外す	
② 両側のローラー吊軸の跳ね上がり防止ナットを、本体に接触するまでスパナで締めてください。			
	両側のローラー吊軸の跳ね上がり防止ナットを、本体に接触するまでスパナで締める		
<b>注意</b> ※跳ね上がり防止ナット必ず締めてください。締め忘れは、故障・破損の原因になります。 ※跳ね上がり防止ナットは締めすぎないでください。締めすぎると扉が下がり調整がずれます。			

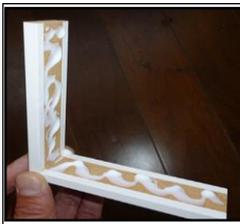
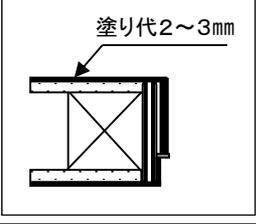
# 塗り壁仕様施工方法

forステルス枠

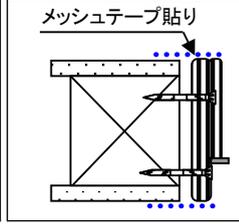
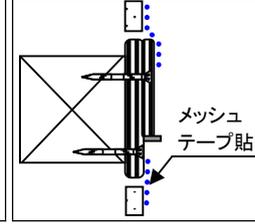
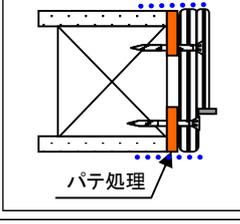
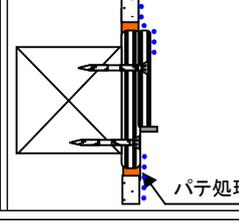
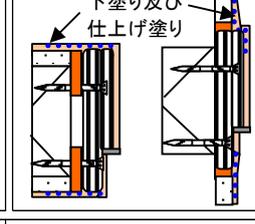
施工手順書2015/12更新

改訂2020/6

## 1-1 共通事項

<p>① 枠の取付け・調整、及びクサビ、またはパッキンの固定が完了したら、巾木を接着剤にて縦枠下地の欠き込み部分にはめ込むように取り付けてください。(接着剤は酢ビ系をおすすめします)</p>				
	<p>接着剤全面塗布</p>	<p>下地の巾木欠き込み部分 (4×30)</p>	<p>下地の欠き込み部分にはめ込むように取り付け</p>	
<p>② 金物箱と同梱されている受金物（ヒンジ・ラッチ受・鎌錠受・レール・ガイドピース等）を加工部、または下穴があいている所に取り付けてください。</p>				
	<p>ヒンジ取付け (下穴加工部分)</p>	<p>ヒンジ取付け (ビス止め)</p>	<p>ラッチ受取付け</p>	<p>塗り代2～3mm</p>
<p><b>注意</b> ※出荷時には、巾木の欠き込みはクロス仕様よりも3mm浅く(4mm)欠き込んであります。(巾木の厚み7mm以上の対応は行っておりません)          ※塗りの厚みは2～3mmの設定になっているため、受金物もクロス仕様より2～3mm出っ張るよう加工されています。          ※天井はクロス貼り、下り壁は塗り仕上げの仕様となります。(下り壁仕上げ面の塗りの厚みは1.5mm以内となります)</p>				

## 1-2 共通事項

<p>③ 受金物の取り付けが終わったら、受金物・樹脂見切り・金物台座・巾木・見切り縁等に隙間がないように養生を確実にし、石膏ボードと枠をまたぐようにメッシュテープを貼ってください。</p>				
	<p>受金物等に養生</p>	<p>メッシュテープ貼り (石膏ボードと枠をまたぐように貼る)</p>		
<p>④ メッシュテープを貼った後、パテ処理(2度塗りを推奨)をしてください。パテが乾燥後、下塗り材(アク止め入り)をムラなく塗り、1～2日乾燥させてください(漆喰の場合は2度塗り)。その後、仕上げ材をムラなく塗り、3～4日乾燥させてください。この時、ビス部分にもパテ処理を行ってください。</p>				
	<p>パテ処理(下地処理) (2度塗りを推奨)</p>		<p>下塗り及び 仕上げ塗り</p>	
<p><b>注意</b> ※ウォールスルーはガラスの押え縁を見切りに塗ってください。          ※受金物・樹脂見切り・金物台座・巾木・見切り縁等は出の寸法が異なりますので、はみ出さないよう注意して塗ってください。          ※片開き戸、親子戸はヒンジ側の納まりが平部の場合、巾木は縦枠下地の面で止める仕様になります。(ヒンジから巾木までの欠き込みは、塗りにて処理してください)          ※漆喰の場合、アク止めは1回塗った後に十分乾燥させ、さらにもう1回塗って、1～2日乾燥させた後に上塗りを行ってください。</p>				

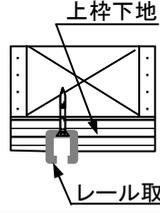
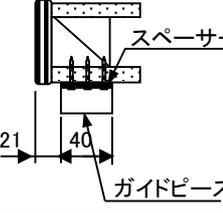
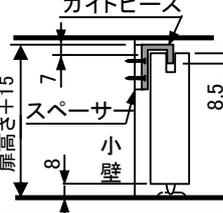
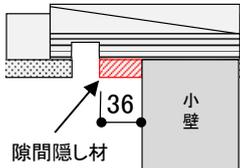
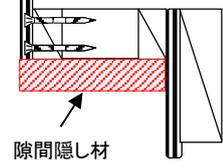
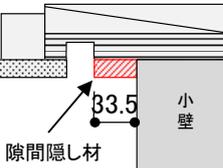
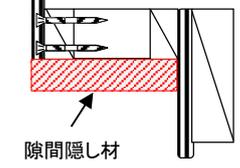
# 塗り壁仕様施工方法

forステルス枠

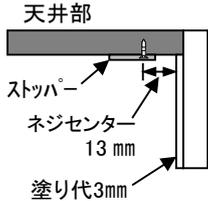
施工手順書2015/12更新

改訂2020/6

## 2-1 塗り壁施工前手順

<p>① <b>レールの取り付け</b> 下り壁仕様の場合、引き戸レール・折戸レールは塗り壁施工前に取り付けてください。</p> <p><b>ガイドピースの取り付け</b> ガイドピースの取付け 床付レール仕様の場合、ガイドピースを塗り壁施工前に裏側のスペーサーと共に取り付けてください。（取付け位置はクロス仕様と同じ位置です）</p>	 <p>上枠下地 レール取り付け</p>	 <p>スペーサー ガイドピース</p>	 <p>ガイドピース 89.5 7 8 小壁 厚さ+15</p>	
<p>② <b>隙間隠し材の取り付け</b> 【天井ボード勝ち納まりの場合】</p> <p>天井ボード勝ち納まりの場合、上枠下地のレール溝と小壁の間に隙間隠し材を現場で正寸カットして取りつけてください。</p>	<p>&lt;2・3枚引き込み戸の場合&gt;</p>  <p>隙間隠し材 36 小壁</p>	 <p>隙間隠し材</p>	<p>&lt;パーティションシリーズ 2枚引き込み戸の場合&gt;</p>  <p>隙間隠し材 33.5 小壁</p>	 <p>隙間隠し材</p>
<p><b>注意</b></p> <p>※フリー折戸の下レール及び床付レールの取付け位置はクロス仕様と同じ位置になります。</p> <p>※塗りは下り壁の場合のみの設定です。天井納まりの場合はクロス貼仕様のため、クロス貼後にレールを取り付けてください。</p> <p>※見切縁はボードより2.5mmチリが出ますので、見切縁よりみはみ出さないよう、塗り壁施工を行ってください。</p>	<p>&lt;2・3枚引き込み戸の場合&gt; 上枠下地のレール溝と小壁の間に隙間隠し材を取りつける ※塗りの場合は36mm、クロスの場合は33mm</p>	<p>&lt;パーティションシリーズ 2枚引き込み戸の場合&gt; 上枠下地のレール溝と小壁の間に隙間隠し材を取りつける ※塗りの場合は33.5mm、クロスの場合は30.5mm</p>		

## 2-2 塗り壁施工前手順

<p>③ <b>ストッパーの取り付け</b> 3枚引違い戸の場合は塗り厚が3mmの場合、塗り仕上げ面からストッパーのネジセンターは12mmとなります。</p>	 <p>天井部 ストッパー ネジセンター 13mm 塗り代3mm</p>			
	<p>3枚引違い戸の場合のストッパー位置</p>			
<p><b>注意</b></p> <p>※塗りの厚みが3mmの場合の塗り仕上げ面からの位置になります。</p>				